明治卅六年四月五日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第三巻
第八號
明治三十八年八月二日發行

日本婦人の新使命（安部磯雄）……一
青年男女の渡米……八
結婚と幸福……九
家居隨感錄（松の舍）……一二
●交際と對手の研究　●客の待遇　●兒童日記　●親族
花守放浪日記（二葉生）……一五
●花守の宿　●種子蒔き　●宿の庭　●我が宿の眺め　●二葉の葉
お話の材料……一九
『學生情死問題』餘論……二〇
理科問答……二四
星の話……二五
雜話一策……二七
料理二品……二九
田舍の小家庭（中井橘嵐）……三〇
筆ついで……三二

由分社
東京市芝區新堀町三十番地

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の家庭

本紙特色

理屈は云はないで實用ばかり
やさしい文章で面白い書き方
質問隨意返事は親切で分る迄

第三號 八月一日發行 目次

◉お伽噺懸賞募集
◉怪我をしない子供
◉子供の嫉妬心
◉夏の遊びと新按の水鐵砲
◉夢を見て泣く兒につき　醫學博士　三嶋通良
◉子供に菓物を與へる時刻
◉私日本好き　口繪
◉花嫁の日記　かよ子
◉汗もの手入れの仕方　岸邊東洋幼稚園長
◉家事のいろいろ（質問遠慮なし）
◉武坊が培くつた野菜のご馳走
◉結婚當時の所感　農科大學　澤田寛人
◉貞節な音樂家
◉子供がとんぼを捕へるは善い遊び　紅童
◉行儀作法で嚴しく育られた我が老立　白虹
◉子供の育て方　●兄弟喧嘩の裁判の仕方●日醒めの悪い兒●避暑は海か山か●（質問遠慮なし）
◉煙草の吸ひ殘りを利用した千葉博士の女中

定價　一冊金六錢　六冊郵税共卅三錢　十二冊六拾錢　●毎月一回

發行所　東京市牛込區納戸町六番地　明治の家庭社
發賣元　東京日本橋區本石町三丁目　寶文館　電話本局三三一三

●本誌定價及廣告料

一部	一ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料——特別一頁十圓、普通一頁七圓

注意

一、本誌は毎月一回（一日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十八年七月廿九日印刷
明治三十八年八月二日發行

發行兼編輯人　東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村惠治郎
印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助
發行所　東京市芝區新堀町三十番地　由分社
大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

輕便 瓦斯の煮焼 德用

瓦斯は燈火用の外料理其他一般の煮焼用として使用は輕便マッチ一本あれば晝夜何時にても即時に用を便じ火力加減自在にして火災の危險なく且大に手を省き費用は薪炭よりも低廉なり

○三升の米は瓦斯代僅に一錢七厘時間十六分にて炊くを得べし

○瓦斯竈は本社の發明品にて專賣特許を得たるものにして瓦斯消費量少なく德用便利也

○工事費は前金拂は一割引とし又月賦拂にて約定す

○臺所竈、七輪、湯沸、風呂並煖爐等に專用の瓦斯代は特に定價の二割引とす

尚各種式新器具は當社構内陳列所又は銀座陳列所さへ陳列縱覽に供居候御立寄御一覽被下度候

東京 神田 錦町 東京瓦斯株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此清心丹は全國到る所にあり

ニツケル罐入にてポケツトに用に適す

懐中 青心丹

本舗 高木與兵衛

旅行又は平常携帯に便利也

福田英子女史著

妾の半生涯

◉第四版◉

▲大阪事件の女傑景山英子、今や福田未亡人として自ら其半生涯を語る▲彼は如何にして爆裂弾を懐くに至りし乎▲彼は其間に於て何人に情を寄せたりし乎▲彼は何人に於て其戀を失ひ、何人に於て更に其愛を得たりし乎▲彼の獄中生活は如何に奇なりし乎▲彼は如何に其後の廿年を過したる乎▲彼は如何にして四人の子の母となりたる乎▲彼は如何にして最後の失望の間より更に新光明を認め得たる乎▲彼は卒直に、大膽に、淡白に、悉く自ら之を語れり▲定價三十五錢、郵稅六錢

發賣所 東京神田表神保町 上田屋

滊機滊罐　耐震煙突

宮原水管式滊罐　諸種喞筒

東京市芝區
金杉新濱町
壹番地

株式
會社

芝浦製作所

（電信略號　シハウラ）

發電機　電鐵電燈用具

電動機　變壓器

電話　特五三番
新橋　三五〇番
三一三三番

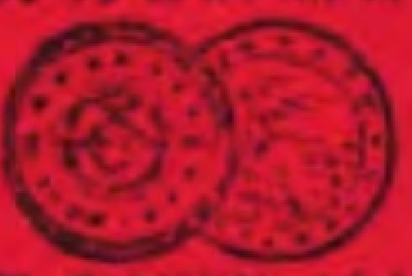
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第五回內國勸業博覧會銅牌及褒賞狀受領

●壽美禮おしろい●

登録 商標

五二會品評會功勞銅牌



THE BEST MADE
SUMIRE
VIOLET PASTE
ウワイオレット水製
瑪瑙附乳白硝子壜入
壽美禮おしろい

壽美禮おしろい
ねり製 定價（大壜二十錢 小壜十二錢）
水製 定價（大壜二十五錢 中壜十五錢 小壜十錢）

ヴワイオレット水製

錫栓附乳白硝子壜入

すみれ白粉は歐米諸國に専ら流行する香料及弊店特製の化學的炭水素の新成蹟體等を以て調製しあるを以て總てを艶麗ならしめ芳香馥郁として長時間保続するの特性あり

望おしろいは芳香馥郁と長く保つが故宴會祝席雜踏の場所に衛生上良好の逸品なり

壽美禮白粉は高等優美にして意匠も美妙なれば御進物に最も適當す方今東京横濱に於て上流社會に益々好評を博しつゝ流行せり

●皮膚艶白劑●壽美禮あらい粉●

綠、藍、紅彩蝶番ひボックス入三錢
鑵詰 六錢五厘　袋入 壹錢

●弊舗製造の壽美禮洗粉の義は方今歐米諸國に専ら賞賛する香料及弊店新製の原料を用ひて製せしものなれは朝夕此洗粉を御用ひ給へば能くあかを落し御肌を美しくなす

●常に髪洗ひに用ひ給へば髪のねばりを取り油あか等を生せず又手拭ハンカチーフ絹綿等に用ひて能く汚垢を落す總て物を染白する性あり

●使用法は普通あらひ粉の半分にて能し水又は温湯に溶し又はぬかに混せ入浴の際用ふるを良とす

登録商標

SUMIRE.
Washnlg Powder

壽美禮あらい粉

製造本舗

東京東兩國（兩國橋際）元町

伊勢吉壽美禮

販賣所は全國到る處小間物店化粧品店賣藥店其他各勸工場各劇場運動場に有り

日本婦人の新使命

安部磯雄

これ迄に私の宅へ渡米志望の人々が相談に見えたのは随分多い事であつたが、私は其等の方々に對して、未だ曾て一度も反對した事はない。其人の志さへ堅固であれば、それは洵に喜ばしい企てゝ、全く賛成するより外に道がなかつたのである。處が、此度丁度米國の地を踏むの機會を得、極めて僅な日子乍ら、親しく現在の有樣を觀察して、更に私が抱いて居た所の従來の考へを強くした。即ち、日本人が家を携へて、彼の太平洋沿岸の地に續々移住する事は、單に其人達自身の都合上から見ても、國家の立場から云つても、又今一層高い人種的憎惡心を融解するてふ理想の上よりしても、最も必要な尊い吾人の仕事であると感じたのである。最近の調査では、六萬に達する同胞が彼地に居るが、特に太平洋に沿つたカルホルニア、ミシガン、オレゴンの三州は、廣漠なる土地を開放して、移住者の來るのを待つて居る。

さて、然らば日本の渡米者の仕事は主に何であらうか。日本の渡米者の中には、多少の資本を持つて居る人もあらうが、其多くは無財産無一文で行く。其等の人々が取るべき唯一の仕事は、他人に雇はるゝと云ふ事である。他人に雇はるゝには、先づ臺所のクック、ボーイ、日用品雜貨の賣子、若くば百姓家の雇人と云ふ樣な調子で、孰れもこれは第一着手始めの勞役、斯くして一年なり二年なりを働き、質素な精神を持し、四五百ドルも貯金が出來るならば、今度こそはそれを資本として、何なりと自分の嗜好と目的に合致した、獨立の事業に一身を抛つ事が出來るのである。その獨立の事業に就いても、種類はなか／＼夥しい。其中で、最も主なるものと云へば、先づ商と農とであらう。商は種々なる雜貨を集めて、信用を賣る事を土臺にして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本人と亞米利加人に顧客を作る。農の方は其金子で最初農具を購ひ、借地して自身で百姓となり、何時か耐忍刻苦の種を蒔いて、此次は田地其物を我が手に入れると云ふ順序になる。

併し、果してさう誂向に金がたまるであらうか。

私は乾度出來ると答へる。出來ねばならぬ譯がある。假りに勞働する人の給料から申すならば、彼の日本で土方位の地位で働いて居る人でさへ、一日二圓五十錢の收入であるが、彼地ではこれが普通の賃金で、而も最下等の給料となつて居る。これから上は萬事本人の腕一つ、熱心に怠惰を起さず働く人は、非常に立派な報酬を得る事が出來る。カリホルニヤではレモン等の廣い大きな果樹園が彼所にも此所にもあつて、收獲期になると、日本人が必ずこれに雇はれる。雇はれると云ふよりは受合ふ方である。そして此賃銀は如何程かと尋ねるに、果物收獲の仕事に熟練した、敏捷な勞働者は、實に一日に十ドル――二十圓の大金を手に入れる。餘程緩漫な不手際な人でも、一日に七圓より下る

事は滅多にない。尤も、此樣なうまい口は常住續かぬ。云はゞ時間的の際物で、長くて二ケ月の間であるが、併し其外に仕事なら幾何程もある。仕事が絶えた結果、勞働者が手を束ねて徒食せねばならぬと云ふやうな心配は、全くないと斷言しても宜い。

忍耐力のある、それに經倫の才の加はつた日本人で、今日迄に渡米して身代を造り上げたのが澤山ある。其中、特に名高いのは葡萄園を開いて居る中澤某で、今ではもう立派な百萬ドルの資産家となつて居る。牛島と云ふ人は、馬鈴藷を堀つて二三十萬ドルの財産を作つた。此人の藷畠は青山の練兵場より廣いと云ふ。

以上一二の例は勞働に成効した人の事で、固より皆なが皆迄と云ふ譯ではない。けれども、本人の心得一つで少くとも此人達と同じ成効を收める可能はある。

私は此間 桑港 の旅館で、一枚の新聞紙を讀んで感じた事がある。それは『資本家なる新聞賣子』なる表題で、日本のある若い新聞賣子が一萬三千圓の金を出して土地を買つた、と云ふに始つて居る。畢竟同新聞

の記者が此事を何處でか聞いて、賣子の所へ訪ねて行き、委しい話を聞いて筆記したのであつたらしい。記事の中に、「私は十五六歳の時分から新聞賣りを始めたが、今では一ヶ月に二百ドルの收入は慥にある。其收入に對して新聞は一日に七百枚賣れば宜い。私が日々賣付ける七百人の顧客、これをどうして作つたかと云へば、それは一に私の注意深い事が主なる理由である。初め一人の客に一枚の新聞を賣付けるならば、私は翌日同じ場所で、同じ時間を選び、そして同じ客を見付けて、同し新聞を賣らねば置かぬ。それが三日四日と重なるに連れ、外に隨分競爭者はあつても、大抵は自分の新聞を買つて呉れる。其代りに私は一日も休まない。と云つたやうな風に幾年間を過した結果が、今日となつた次第である。近頃私に勸めて、寧ろ立派な會社にでも這らぬかと云ふ人もあるが、併し職業には貴賤の隔てなし。新聞賣子の地位が賤しいから會社員になると云ふやうな考へは私の頭腦に微塵もない。」とあつたが、これが實に亞米利加獨特の美しい氣風ではなからうか。

現今太平洋沿岸に居る日本人の數は六萬程もあらう。此中で、二三萬圓の身代を造つた人は百か二百か、大抵は當初の志望を果す能はず、唯其日〳〵を暮して居ると云ふ斗りで、失敗したのも同然である。私は此等の事情を靜に考へて、渡米者の多くの運命が何故斯う云ふ結果になるのであるか。無學な勞働者の手にさへ、故國では夢かと思ふ程大した賃銀が授けられる。そして、多少考慮のある敏活な人には、何處迄でも羽振を擴げる事の出來る自由の天地に居て、何故今少し富裕な身代の移住者が殖えて來ぬのであらうか。私はこれを不思議に思つて、種々と研究すると、成程其間に正に大きな缺陷のある事に思ひ及んだのである。抑も其缺陷とは何を意味するのであらう。それは外でもない、廣く云へば、女の不足、狹く云へば其人に連添ふ妻のない爲め、更に極言すれば、渡米者の多くが妻帶者でない爲に、折角の苦勞も忽ちにして空しく、花は咲ても實を結ばぬ同じ運命に陷る人が多いのであつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。彼等は可也に辛抱強く勉強する。才氣のあるのもある。そして收入もなか〳〵少くない。二三年も經つ内にはもう餘程の金高を稼ぎ上げる。けれど、大抵は一定の時期が來ると、一つの病ひに罹る。其病ひは賭博と富籤である。私は考へた。何故日本人は亞米利加に來ると、中途から斯う云ふ邪路に踏込むか。百人中二三の除いては、平生堅實と云はれる人でも、つい魔がさして横道へ外れる。斯くして汗の報酬の貴い貯蓄を、一朝にして失して了ふ。

此事に就て彼等の中の一人が、私に實狀を打明けて話した事がある。『固い決心を以て此地に來た人が、二三年の月日は隨分眞面目に稼ぐ、誘惑にも面を向けぬけれど、稍土地の事情になれ、世の中が解つて來ると、今度は日々の生活に非常な無趣味を感じて來る。私等は勞働者であるから交際のたしなみがない。と云つて平民的に慰樂の與へやうと云ふやうな倶樂部も何もない。それに日本の女の優しい顔を見る事も出來ぬ。在米男子百に對し女子は僅に二の割、畢竟移住民は日々女に渇えて居ると申して宜いのである。』と。此物語は此間の消息を最も明かに説明して居る。それは吾人人情の常態として、優しい美しい異性の愛に飢え、この愛を滿足させやうとして成らず、結局賭博、富籤の勝負にせめてもの快樂を得やうとするのは無理のない次第である。これが何の賤しい心事であらう。由來人生は愛である。金を儲るのが彼等の大主眼でない。其事業稍成功の緒を見やうとして、更に新しい女性の愛の光を慾求する、これ、人情の美點ではあるまいか。

私は其時其人に何故其地の婦人と結婚せぬかと尋ねたところ、亞米利加の婦人は一體に贅澤であるから滅多に妻とする事が出來ぬと云ふ。それでは一時歸朝して然るべき細君を見付けたらば、如何と反問すると、事業の中途で其樣な悠長な眞似は思ひも寄らぬ事であると答へた。或はさうでもあらう。

此に依つて私の觀察は明確になつた。日本の移住殖民が失敗に終る主なる原因は、其家庭的移住でないからである。是を切言すると、日本婦人の氣象がまだま

だ薄弱で、理想が小さく、箱庭のやうな内地に引籠つて、常に恐れ戰くと云ふ在來の性情の致す所である。相當の見識あり、肉體と精神の健固な婦人は、宜しく其優しき胸に勇氣を振起して、遠大の志を立てねばならぬ。其所には幾多の日本男子が無趣味な寂しき獨住をして居る。と云ふと或は結婚する爲に婦人の渡米を獎勵するやうにも聞えるが、私の意見は必ずしもさうでない。婦人が渡米の第一目的は矢張り彼地の職業を見付け、志望次第で金を儲けても宜い。そして、ふさわしい緣があれば結婚する。緣がなければ結婚するには及ばぬ。兎に角女子が海を渡つて足を異域に延せると云ふ、勇しい發展が最も緊要なのである、私は桑港で一人の婦人に逢つた。此人は日本に居る内に、既に四人の子供があつたが、家產が段々に傾いた爲に、終に渡米を志し、子供を亭主に預けて自分は遠征したのであつた。今日ではある家に女中奉公を勤めて居るが、一ケ月の給料は二十五ドル、それも食べた上。尙ほ今一層好都合な事は、其家の細君は新流行を追つて、華美な生活をして居る人故、着物などは二三度身に着けると早速呉れて了ふ。其外には一文もいらぬので、彼女は每月五十圓宛を國元に送つて居ると云ふ。彼女の話に『二三年居れば二三千圓の金が出來るから、それで妾の目的は遂げられる譯、其曉には早速家へ歸る。』とあつた。餘程勝氣な强い婦人であるに違ひない。

私は今一人在米日本婦人に面會した。其人は至極繊弱い身體であつたが、日本の女學校を卒業すると、直ぐ良人と共に渡米し、持參の金子で十二町步程の畑を買つた。それから二人はこの畠にトマトを栽培し、熱心に經營して居る内、不意に主人が死んで了つた。故國の親戚は其時歸朝を勸めたけれど、若い未亡人はこれに應せず、以來は自分の手一つで土を掘り、肥を施し、懸命になつて働いたのである。それで、今では大變有名になつて、每朝其未亡人がもぎ際のトマトを馬に積んで市場へ持つて行くと、其所に居る米國の男子は、種々と勞つて荷物などを下して呉れる。馬の世話

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をして吳れる。萬事好都合に運んで居ると云つて居たこれは婦人を尊重する米國でなければ見られぬ圖であらう。思ふに此婦人は今に大金を携へて歸朝して來るであらうが、此等は共に人意を强ふするの實例であると思ふ。尤も渡米する婦人が悉く成効を見るや否やは問題であるが、只一つ固い事は職業で、如何なる人でも彼地へ渡つた以上、何かの職業が得られぬと云ふ事は決してない。

但し、こゝに一個の重要問題がある。

それは日本人排斥問題で、三つの大きな新聞で堂々とこれを論じて居る。從つて日本でも危惧の念を抱き、折角の渡米の企てを見合せて居るのも少なくない。併しこれは全然氣をとめる必要がない。其理由は第一前陳三州の人口が二百五十萬程あるのに比して、勞働者の數が夥しく少ない。ハワイ邊りからどし／＼勞働者を送つて居る處から見ても容易に分るのである。それに、排斥問題を喋々して居る新聞の持主が勞働者を使ふ資本家ではないか。思ふに、若し彼等の間に眞に排斥の意思があるならば、それは正しく人種の問題であるだらう。其外には全くない。

夫でこの點は日本人の爲政者に於ても一考を煩はさればならぬ。天産物に豐饒な米國と云ふ寶の山を眼前に控へて居乍ら、空しく手を束ねて還入る事の出來ぬと云ふのは殘念である。不利益の極である。

私が彼地へ行く時便乘したコレヤ號の船室に一人の婦人が居た。大坂の人で年は廿二三、桑港に居る父親が、女學校へ入れると云ふから行くのだと云つて居る。私は其前途の光明を見て幸福を祝つて居たつ處が、船が港へ着いて乘客が上陸した時、移民官は其婦人を捕へて市へ行く事を許さぬのである。何故かと聞くと、トラホームを患つて居る疑ひがあるからだと云ふ。併し事實は單に眼が充血したと云ふ丈に止つて居る。終に日本人は不平を稱へ、移民官といろ／＼議論を鬪はしたけれど、不幸にもそれは相手の聽く所とならず、婦人は其儘追歸されて了つた。私は非常に感じた。これ一國の體面を侮蔑したものであると。續いて、これはどうしても單なる人道問題に訴へる位では物足らぬ。此方でも何か利害關係の急所を捕へて、對抗の策を講せればならぬと思つたのである。

支那移住民が排斥された時、彼等は立派に復讎をやつた一體復讎と云ふ事は宜くない事だが、個人の權利を主張すると云ふやうな點からこれを正當に用ゐる事は、私は必要であらうかと考へる。

實に亞米利加は日本文明の父母である。舊來の日本は此父母に依て今日の文華を來し、面目を一新した。今後の日本の使命は、更にこれを亞細亞一帶に播傳せしめる事である、抑も文明の究局は四海の融合にある此間にあつて、獨り人種的の憎惡心を相抱くと云ふのは、文明の大々的缺點ではあるまいか。されば、世界の爲に、同胞の爲に、この缺點を解くべき責任を荷つ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たものは誰であらう、そは正に亞米利加である。

人種的憎惡心を解く爲に、亞細亞人が先づ出で丶亞米利加の地面を踏む、世にこれに勝る捷徑があらうかそれのみならず、太平洋沼岸は眞に天與の土地である其莫大な、豐饒な天產物は、亞細亞の殖民が啻に六萬と云はず、時經て六十萬、六百萬の多きに上る事があらうとも、これに食を與へ衣を與へる餘裕は充分にある。斯くて、世界最大の宿題たる異人种の共同の曉は來るであらう。

私は切に云ふ、須く渡米せよ。特に婦人諸君に於て其必要をより多く認める。家庭を營むは先祖の土地ばかりに限つた事はない。理想あり、勇氣あり、忍耐あり、信仰ある處、何處でも家庭の花は幸福に咲くのである。

右は過般早稻田大學野球隊を率ひて渡米せられたる安部氏のお土產話として玩味すべきなり。尤も今回氏が目に新しく映したる米大陸は今後氏をして幾回が演壇に立たしめ若くは紙に向はしむるの機會あるべし。只、本題は日本家庭に最も深き關係を有し、兼ねて因循なる淫靡なる家庭に對して、正に一大警告を與へたるものなるを以て、記者は取不敢これを本誌に揭げて讀者に傳へんとせるなり。

日本の家族制度

日本の家族制度に就き、岡村法學博士の談話なりとて、ある誌上に左の數項を發見せり。面白き節あればこれを收錄す。

○隱居制度程馬鹿氣たる者はなし。武士時代に在りてこそ、其必要もあらめ、今日に至りては、何等の意義をも有せず、只人を遊惰安逸に導くの惡果を來すべきのみ。

○家族主義に伴ふ養子制度は、一方に於ては親子の天倫を傷ひ、他方に於ては婚姻の神聖を害す。父にあらざる父を父とし、子にあらざる子を子とす、是れ天倫にあらず、人情にあらず。況んや、養子は養親を扶養する爲に、實親を棄つべきこと、これを法律の命ずる所なるをや。非倫の極、寧ろ之より甚しきものあらんや。婚姻は法律の獎勵する所、婚姻せざる父母の間に生じたる子を私生子とし、庶子として之を冷遇するは、たとひ法理的にあらずして政略的なりとは云へ、多少の理窟を有すと云ふべし。然るに、其父なる者、私生子庶子を養子とする時は、此冷遇は一變して嫡出子の厚遇を受くるに至る。是れ法律の自殺にあらずして何ぞや。

○長子相續は最も不理窟なり。生れて世に出でたるの前後を以て、兄弟姉妹の間に大なる差等を設くるが如き、今日に於て最早何等の説明を與ふるの限りにあらず。而して、我が民法がこの不理窟を敢てして顧みざるは同じく鵺的法律の結果たるに過ぎず。

○夫婦の關係に至りても、妻の姦通を以て離婚の一原因と認め乍ら、夫の姦通を許容しあり。殊に刑法の姦夫姦婦を姦處に殺し、其宥恕輕減を得るの恩典は、單に男子のみに存するが如き、いかに法律は男子の作りたるものなりとはいへ、餘り得手勝手に過ぐるにあらずや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

青年女子の渡米

◎日本人の生活難は今や國內に響き渡つた聲であつて、不景氣だ、食ふ事が出來ぬ、といふ悲哀な泣き音は到る處に聞かれるが、其害である、年々增加しつゝある五十萬の人口、之れ丈けでも日本人が食へなくなつて行くのは明かだ。見よ、外國米は每年非常な勢を以て輸入される今日、一方に斯く人口は增すに付ては、誰か日本人の內の或者が日本の國を見棄てて外國へ出て行かなければならぬ、確かに此れも忠君愛國の一つであるといはればならぬので、國家も政府も此點に注意し、特に青年は大に此事を考へる必要があると思ふ。

◎さて此の人民が海外に移住して必要なのは家庭である。昔の歷史を見てもグリースがイタリーを開いたのは、先づ第一に火を持つて行つた、火――之れは家庭を持つて行つた事だが此の家庭は女あるに因て遣らる、――女！之は人類に於て必要缺くべからざる者、女が無ければ人は和ぐといふ事が出來ぬ、實に心理學の上でも、又事實の上に於ても確かに然うである。

◎日本人が渡米して成功せぬのは何故であろ乎といふに、日本人が歡迎されぬからでもなく、賃銀が安い爲めでも無く、唯だ婦人が行つて居らぬ事に原因するのだ、女なくして家庭無く、家庭なくして人間に慰藉安樂無く、之れなくして人は辛抱が出來ぬ永住が出來ぬ、乃ち成功せぬ所以である、日本人の不評判となる基である。

◎昔し外國から移住した古代羅馬の人民が、サバインの婦人を盜み奪ひに行つた。何の爲めに彼等移住の民は婦人を奪ひに行つたかといへば、決して今日のかどわかしの樣に娼妓にする、淫賣婦にする、妾にすると云ふのではなくつて、純粹な妻とし、最も可愛がつて共に樂しい家庭を造つたのであつた。而して此等の家庭は總て羅馬の文明を生み、此等の婦人はシーザーや、ブルータスの樣な偉人の遠き母親となつたでは無い乎。

◎又昔し米國が開かれた時、英國から幾多の青年が移住したが此青年等は間もなく、婦人なきに寂寥を感じ出した。其時である、英國から三艘の船に婦人を乘せて米國に持つて行き、米國產の煙草と交換した事があつた。記せよ、三艘の大船に乘せられたる幾百の婦人の內で、煙草と交換さるゝ事を厭ふた者は、タッタ一人しか無かつたといふ事だ。之は立派な事實である、歷史の我々に敎ゆる所である。而して此等の青年男女の造つた家庭は、總て自由の國を生み、今日の富強の基を成し、幾多の偉人傑士を產するに至つたでは無い乎。

◎米國や、英國に基督敎の大傳導會社がある。其會社から多くの傳導師を外國へ派遣するが、皆な男女の比例を取つて送り出す。日本あたりへ來ておる外國の傳導師も、矢張此の男女の數を配分して送られて居るのである。女！女!! 之れはどうしても人類に必要な者である。況んや本國を離れ海外萬里の異域に在る者に於て、特に其必要を感ぜしむるのである。（片山潜氏）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚と幸福

（結婚すとも如何にせば幸福なるべきか）

英國　某原著

初戀に結ぶ互の心根を
　解かぬしるしの接吻こそ
　　うれしきものゝ極なりけれ。　カメル

○

結婚後の幸福を餘り欲深く期望して己を欺くこと勿れ。神の與へ賜ふより以上、即ち、現世の身の浴し得るより餘分の滿足を望むこと勿れ。換言すれは、結婚して、萬事不便より脱せむなど思ふ勿れ。　フラー

○

由來結婚といふものは、オリンパスの陵の如く、全く晴朗にしてかゝれる雲もなしと云ふやうなるものにあらざるぞかし。

「結婚すとも、如何にせば、幸福なるべきか。」

此奇妙な題目はスケルトン氏の說教の一ツであるが蜜月初めての濕つぽい日などに、新婚の若夫婦が古い書物でも見やる頃しも、こんなものを見つけたら、必ず、御氣に觸れる怒の雲、………仰天とまでは申さぬが、………が一時ムラ〳〵と起るであらう。

「偶然、共に此世に出で、うまく一所になつた二人の若い者の互にかはす目つきと目つき、挨拶も目出度濟んで、家に歸つたものゝ、結ぶ互が身の夢心地。離れて居ては、氣もふさぎ、一所になつたら、必ず常嬉しいことゝ思ふもの。」

處が、そう極つたものでない。結婚して見ると、離れて居るほど睦ましいのが通常のこと。

○

「幸福なる生涯を偶然にして得たるものなく、又漫然、願ふたとて得たるものあることなし。」

併し、此が結婚に就いて、多くの素人連の、丁度考へなのだ。素人連想像して曰く、結婚といふものには

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

魔力があつて、否や應なしに、幸福をおしつける位のものだと。處がビックラしてしまふ。サー經驗して見ると、家內の圓滿といふものも、外の仕事とことならず、隨分骨の折るゝもの。此を得ようとするには、辛棒强く、己を制し、なほ進んで、夫や妻同志、お互の趣味、おまけに缺點まで認め合はねばならぬといふことが解る。

一旦驚いたものゝ、結婚して一年過ぎぬ內に、大抵の者には、スケルトン氏の「結婚すとも、如何にせば幸福なるべきか」といふ題が、無茶苦茶のものでないといふことが知れてくる。

そうなると、解るのは夫婦が踏み込む路といふものが、互に勸辨し、相敬ひ合はないと最後、其路上には、美しい薔薇の花どころか、茨だらけになるかも知れぬといふことである。

結婚は「誠に無害な慰み」だなど言つた老獨身者があるが、まだ理窟が解らぬからの寢言であるらしい。結婚が無害で幸福なものであるのは堅くなとか、癇癪などを制し、行儀作法を愼んでの上のこと。結婚は役所の樣なもので、絕えず、讓り合のあるもの、それゆゑ、兩方の愛情が如何ほどのものでも、夫婦心得の金科玉條たる、「忍耐と勸辨」とが無いと、忽ち愛情は冷えてしまふ。

○

手初がよいと、後の骨折が半分だけで濟むと云ふ眞理は、結婚に於いても多くの他の事と同じこと。

併し手初がよくとも、氣にしまりがないならば、實にわけもなく、滅茶苦茶になつて、折角、樂しい月日を見る筈のものを、憂き月日を送らねばならぬもの。

○

結婚して樂しい月日が見たくば絕えず自分が犧牲とならねばならぬ。これが一方の者を喜ばす力で、自分共の顏も、爲めにニコ〳〵する基。此が一方の者の重荷を負ひ、自分共の重荷を下す力なのである。

怠らず、克己しつゝ、一方の都合のよい樣にしてやれば、必ず自分達に快然衎與の力も出て來るもの。

總じて與へなければ得るものなく、蒔かずば、收むるものがない、他人の重荷を負はずば自身の重荷で潰さるゝ道理。結婚しても、不幸な者が澤山あつたら、其は自然の大法たる己を犧牲にするてふことを怠り、出すより取り込主義の慾深から起ること。

他人と共に、永の年月、睦まじい和合の暮し方を知るほど貴い智識はなく、そして、これが結婚の定義といふものであらう。

此學問をやると、人の穴さがしをしたり、人に迷惑をかけたり、人を困らしたり、其外厄介な癖は皆な去るものである。

「こんなことは瑣細なことだ」と言はるゝことがあるが、瑣細なことから得て家內の不幸は起るもの。そして、家內の不幸の結果と來ては、なか〳〵瑣細どころではない。

○

「人生の事是れ小事より成れり。吾人が不幸の半は其小事より生ずるもの。さても、無作法者に學ばせたきは、小さき不親切が大なる罪となるといふこと。豐かなる贈物はえ與へずとも、他人を困しむることは誰も避け得るものなり。」

○

天下は夫婦二人のものたるべきもの。

シドニー、スミスが夫婦の定義で名高いのは、

夫婦は一挺の剪刀の樣なもの、一ツものゆゑ離れず、向ふところ屢 相反するも、二人が間に入るものには、必ず刑罰あり。」

實に、夫婦の間に入ると、ひどい目に合ふ。そして夫婦といふものは、如何なることで、反對しても、いかゝはしい友人の干渉は、假令善意にいたせ共力して避けねばならぬ。

○

ヂョーヂ、エリオットが言つてゐる。夫婦といふものは同情か壓服かの關係でなくてはならぬと。そして、實際のところ、夫婦破れのするのは、大抵、互に上に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

立ちたいと思ふからの爭より起るもの。

教會へ行く折には、「己が」といひ、歸りになると、「妾が」といふ。そこで爭が起る。

一人の愛蘭人が、「何が故に君達夫婦はそう喧嘩をするのかえ。」と尋ねると、

「それは、私共が一ツの心ゆゑのことで、妻は私の上に立ちたいし、私は妻の上に立ちたいからですと答へた。

自儘勝手では愛を破壞してしまふ。愛情のない、そして冷淡無情。赫々たる神聖の愛火の燃ゆべきところを冷灰といふ程の夫婦關係を作るのは、自分達の勝手が過ぎ、相互の身を思ひやることが少いから起ることこれは共に相亡ぼすといふもの。

正しい基礎で世帶を張つたものは、エデンの花園を人間界に再現せしめたのと同じことである。天下は只二人だけのもので、彼等と外界との間の牆は愛といふ情なのだ。

其花園には、蛇など居らぬ。そして、事實、蛇など

來る必要もなく、アダム、エバたるもの、守護せむ限り、蛇の來ることもない。

處が困つたことに、其愛の牆が僅な爭ひ、小さな不注意、瑣細な無作法に、一寸わずか破られると、終には牆が消滅してしまひ、あらゆる怪獸は入り込んで暴行を逞しうするに至るもの。

○

親しみも餘りに熟し過ぐると、腐敗するものであるが、此が唯一の豫防劑は眞の宗教である。だが、可哀想なことに、壯健で若いものは此樣な事、考ふる必要なしと思ひ、宗教といふものは現生活を尊くし清淨にする爲めに入用であるといふことを忘却し、宗教といふと死といふ考と全く連想しがちのものである。

吾人が神を要するのは、危險、危殆の時ばかりではない。我が得意の折、萬事愉快なること結婚の時響く鐘の音の樣な際にも必要なのだ。若し吾人にして神より離れむか、今日の樂事、明日の悲慘となる事を覺悟せねばならぬ。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家居隨感錄

松の舍

▲交際の端緒に於ける研究

苟も我が門に入り來る者は誰に係らず歡迎するのが本來であるが、復雜な今日の世の中、言ひ換ふれば單純、無邪氣でない交際社界に在ては、消極の手段乍ら餘程注意せぬと、不覺を取ることを思はねばならぬ。

そこで、新に人と交際の開けた時は、少くとも左の件々を研究して見る必要があると思ふ。

一、學藝上の長所　二、其の短所　三、品性上の長所　四、其の短所　五、交友　六、嗜好　七、自己と深き交際を求むるものか如何求むるとせば如何なる目的を持てるか　八、言行一致なるか　九、自己の性質嗜好と合一するか　十、有害の友なるか、無害の友なるか　十一、利益など離れて、無邪氣に共に遊樂するに足るものなるか　十二、恐る可き傳染病など有らざるか。

また、擧げたら、澤山あらう。兎に角、交際の端緒に於いては餘程の研究を要すると思ふ。

毎度新聞紙上に傳へられ、又、實際目擊するところに依るに、どうも此の用意のないため、不利、不覺を取り、延いては、家庭内にまで、大紊亂を及ぼすことがある。

家と家との交際に於いても、かゝる注意が必要で、呑氣で居ると、思ひがけない不幸な結果に立ち到るもの。自分は思ふ、交際の眞意に於いては、利益主義はいかぬ。無邪氣に無害に平民主義なるを要す。併し乍ら、陰險なる世の中のこととて、到底ボンヤリしては居られぬ。研究の當初、見棄てるべき友は斷然見棄てるに躊躇すべからず。

▲客の待遇

客の見ゆるや、冬ならば直樣火鉢を出し、夏ならば不取敢團扇を呈し、先づ歡迎の意を表し、さて茶菓を呈して用談に入るは美風と思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

併し今日多忙の世の中では、無暗に酒を出して、客を無意味に引張るのは時世に逢はぬと思ふ。丸きり何も出さず、たゞ用談のみで、濟ますと云ふ、一寸西洋式なのもよからふが、餘り愛想がないように思はれる。

酒肴の馳走などしたらば、日を卜して、二三人一度に會食した方がよい。話の種も増し、隨て興味も多い。自分達は東京者の常として、客が見ゆると、直ぐ馳走をしたくなるが、今日の時世に鑑み、其弊風を破る様に勉めて居る。客の馳走に就いて面白い失敗談が二つある。

其一つは、予の知人が一日或る家に客となつた。そして、蕎麥の馳走になつたはよいが、其家の小さな小供、まだ五六歳ばかりと見るが突然襖の間より顔を出し、

「オヂサン！その蕎麥を皆食べてしまつてはいけないよ。オヂサンが歸ると坊が一ッ食べるのだから。」

うつかり御馳走にもなれぬといふもの。

今一つは、予の知人に滑稽な男がある。彼が毎度行く家で、いつでも其男が歸らうとすると、細君の仰せに、

「まあよいぢやありませぬか。お蕎麥でも差上げませう。」といふのが常式であつた。

例の通り或日其お世辭を頂戴した時、予が知人は、

「それなら折角ですから………。」

といつて、細君を驚かし、目出度御馳走に預つたといふ話。

附け加へて書いて置かうと思ふのは、

「今日は彼奴の處へ行つて酒を飲んでやれ。」

などいつて出掛ける人があるかと思ふと、其友必ず借金して酒を出す。

かゝる責任と期待とは全然廢する必要がある様に思はる丶。

▲兒童日記

外國語學校の敎授なる村井知至氏は一昨年勇吾君といふ一男兒を得られた。勇吾君は即ちユーゴーで、同氏が理想とせらる丶ユーゴーに因まれての命名とのこ

とであつた。

昨夏同家訪問の折、氏は勇吾日記といふ一冊子を示された。一々開いて見れば、

一、出産の折諸方より來た祝電、祝辭。
二、出産の折の身體の重量。
三、折々の寫眞。
四、心身發育上の諸觀察。
五、旅行先等の雜記。

等細大洩さず記してあつた。

同氏の言に、此日記は勇吾君のいよ〳〵成長せられ、自身で執筆せらるゝまで、姑らく代筆して居る積り、と云つて居られた。小供を單に玩弄物としてあつかはず、又、私有物とも考へず、飽く迄も一個の人として、其養育の責任を自覺するものには、わが小供に對する考へが、自ら此所に及んで來るのも不思議でない。

子供の側から云つても、大抵物のわきまへがつき、己が幼兒の折の生立など知りたくも、多くの者は確かな材料に乏しきもの。此樣な善き親切な父親を持つた子供は眞に幸福なる哉。

▲親　戚

五千萬の同胞の中でも、殊に血を別けた親族、又は、法律上親戚となつた者には、一層偶然でない關係因縁があるものといつても誤でないと思ふ。

多い親戚の中には、思はしからぬ人物もあらうし、不利益な者もあらうし、厄介な者もあるに違ない。併し、親戚といふものを、單に利益より見て打算する事は出來ぬ。

處が實際の有樣を見るとそうでない。予には、今日世の趨勢とするところのものが、多く自己一家の利益より見て親戚と離合すべきものゝ樣に思はるゝが、そういふものかと訝かしく思つて居る。

親戚の離集は丁度梨の心に於ける蟻の如く、甘ければ爭つて集り、味去れば忽ち離る。人情の美點は更に見るべからず。

現金主義の弊は斯の如く、人間自然の美い情味を亡ほす。二十世紀の世界は呪はれたる愛情の時代である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

花守放浪日記

―その節々―

二葉生

●花守の宿（六月二十八日）

保養の爲めとて駿州の海岸へ來たのは五月の初め、その後宿をかへ、塲所をかへて居たが、今度漸く燒津在の濱當目といふ閑村の農家の座敷を借りて、この夏を過ごすことにした。

天井は葭簾、障子は大福帳の反古したのを張つてあるので、他は推察される。しかし空氣も肴も新鮮で、海はすぐ其處だから、先づ〳〵萬事我慢すべしと尻を落ちつけた次第。

さて落ちついてみると庭は淋しい。早速氣の好い宿の主と相談して、前栽へ花を蒔くことにした。幸ひ若しやと蒔き殘つた種子を荷物の中へ入れて來たのを思ひ出し、直ぐ準備にかゝつたのである。

午後花の名を書いつける札にと思つて、屋根板を削つて居ると、隣室の妻に向つて宿の老婦の語るらく、

『當方に、晴天花と云つたり、七ツ花と言つたりして居る美しい花がありますよ。私等が野良から夕飯の仕度爲にかへると咲き出しますので、こんな好い花は無いと思ひますよ、ほんとうに花は目の藥、心の藥で、植ゑとくと好いものですツけ。』

●種子蒔き（六月二十九日）

障子を明ければ、三尺巾位は軒下になつて居て、我等は此處に履物を拔いて出入するのである。その向ふ一二間は所謂庭塲で、小供の遊塲、我等の月を賞する涼臺の置塲ともなる所。その向ふは四五寸地面が高くなつて居て、二三日前迄は牛蒡が植えられてあつた。之は去年の八月に蒔いたのだそうで、我等も昨日揚物にして御馳走になつた。即ち此の牛蒡の跡へ花を蒔くので。

向ふの方へ三四尺、室に沿ふて三間ばかり、と云ふ畝の大きく平いのみたやうなものを、へた。そのまた一本を十二に分けて、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西村渚山、堺利彦、合輯　（毎月一册十五日發行）

由分社少年叢書

▲定價一册金十錢
▲半年分五十五錢
▲一ヶ年分金壹圓
▲總べて郵税不要
▲毎月十五日發行
▲注文は前金の事

●第壹册「眼のある人」「三人大男」（九月）
●第貳册小供のバイブル（十月）
●第參册昆虫ものがたり（十一月）
●第四册クリスマスの話（十二月）
●第五册アフリカお伽話（卅九年一月）
●第六册自然界の一年（二月）
●第七册ロビンソンの話（三月）
●第八册小兒園藝（四月）
●第九册アンデルゼンお伽話（五月）
●第十册花の國お伽話（六月）
●第十一册ドンキホーテの話（七月）
●第十二册イソプ教訓談（八月）

▲右の目錄は場合に依り多少變更する事はあるべしと雖も、兎にかく我等は家庭に於ける少年男女の爲に最も善き讀物を供給せんと欲す、而して其の特色は▲第一面白く▲第二分り易く▲第三爲になるに在り▲少年諸君にして若し之を歡迎したまはゞ、第一輯十二册を終りたる後、更に第二輯、第三輯を續出し、遂に幾百册の讀物を日本の家庭に献ずるを期すべし▲諸君先づ試みに第一册を讀め

●第壹册『眼のある人』『三人大男』（九月十五日發行）

發行所　東京市芝區新堀町三十番地　由分社

●大賣捌　東京堂　上田屋　良明堂　東海堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

山口孤劍著

（定價二十錢　郵税不要）

新刊

社會主義と婦人

孤劍君の文は赤熱の鐵を打つに似たり、兩腕の全力を籠め來つて其の大槌を落下すれば、火光急箭の如く迸つて八方に散亂す、其の議論は直裁にして痛切なり、其の字句は熱烈にして華麗なり、蓋し其の人其の文の如き也（堺利彦序文の一節）

木下尚江著

（定價卅五錢　郵税不要）

（第三版）

小説 良人の自白（後編）

無愛情の結婚に導かされたる現代の破裂を見よ、是れ人の罪に非ず社會制度の罪也、著者は後篇に於て人生の原理を説かんが爲に先づ忌憚なく明治社會の眞相を描寫して國民の省慮を促せり、大膽の文、莊嚴の筆、我文壇未曾有の偉觀たり

（第四版）

小説 良人の自白（前編）

定價卅五錢　郵税不要

發行所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社

取次所　東京市芝區新堀町三〇　由分社

堺利彦著

（八月十八日發賣）

新刊

半生之墓

▲定價金三十五錢　郵税を要せず

著者此書の巻頭に記して曰く『明治卅八年八月十八日、亡妻美知子一週忌の紀念として此書を發行す、此書は予が半生の墓にして又美知子の墓也、予は石の墓を作らずして茲に紙の墓を作る』と、巻中收むる所『予が半生』『哀史梗槪』『不知所往列傳』『永久の滿月』『獄中生活』『細君の說法』其他數篇あり

發行所　東京市根津宮永町　平民書房

取次所　東京市芝區新堀町三〇　由分社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

毎月一回廿日發行

青春

▲一部五錢●十二部六十錢●郵税不要▼全紙優美紫刷

▲第二號七月廿日發行●要目▼

▲希望　愛情と正義●夫婦●汝の城今や危し●汝の倉を守れ●汝歌へば●自己廣告する人●主義は我也

▲主張　自然に歸れ●卒業生に一言す●花と婦人外三項（以上醒天）

▲歸省訓（文學博士井上哲次郎）●尙綱錄（徳田秋聲）●冷熱●夏のページ（加藤背花）●尺八（山水）●小說もつれ髮（きく子）●古道案言●婦女要訓（渡部盤城）●婚崇拜論●浮世はがき（樋口削象）●其他美文韻文豐富●寫眞には夏の美人●レートン筆夏の月●英國名謌秣の車

▲本誌の出るや忽ち當代に一異彩を放てり

發行所　東京下谷區谷中初音町三の卅九　青春社

大和田建樹先生編

美文和歌

夕月夜

正價郵税共三十八錢▲郵劵代用無差支

待宵舎一門の歌文集なり或は春花の芳を競ふが如く或は秋草の野に咲き亂れたるが如し女學生諸君が作文詠歌の良參考たらん

婦女叢書第一編

天眞爛熳

正價金拾參錢郵税二錢▲郵劵代用一割増

無邪氣なる小兒の言行を集めたるものなり怒れる人も泣ける人も之をよみてほゝゑまぬはなかるべし

發行所　東京牛込東五軒町　婦女新聞社

隆文館新刊廣告

婦人科醫平山英治先生著

女子衛生訓

全一册

洋裝頗る美本
定價金四十五錢
郵税金六錢

御婦人は何事にもはにかみ勝ちのものですが、殊に御病氣にかゝつた折など、もとよりその御病氣にもよりますけれど、醫者にもかゝらず人にも告げず、獨りくよ〳〵の物案じて、いつの間にやら大變重らして了ふさうです。はにかむのも事に依る、はにかむのが惡いなど、世間の學者先生樣は仰有いますが、そんならと云うて、さう無造作に癖をなをせるものではありません。それよりは寧ろ常平生の衛生や養生の方法を御會得なさるやうに書いた御本をお勸めして、どんな場合にも大事にならむやうに致した方が、はるかにましであらうと思ひます。この御本はその爲めにわざ〳〵お拵らへを平山英治先生にお願ひしたものですから、御婦人方は誰方でも早く御覧にならぬとそれだけ御損ですよ。

發兌元　東京市京橋區尾張町一丁目　電話新橋二五八六番　合資會社　隆文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

〻蒔き、砂を被ふて札を立て、周りに綱切れを張つて鶏と小供の闖入を防ぐことにした。

普通なればそろ／＼花の咲く此の頃、我が花園には、唯だ斯の如くして二十餘種の花が蒔かれたのである。時を過ごした不幸な花よ、汝は斯の日を其生涯の第一日として、美しく田園を飾り、我等の心を慰藉せずや。

●宿の庭（七月八日）

我が花園の左側に、三尺に六尺ばかりの竹籬で造られた鶏小屋がある。屋根は杉皮で葺かれ、上に破損れた土瓶と鉢とがあつて、どれにも朝顔が植えられ、勢よく育つて居る。また鶏小屋の前には接ぞこねの梨の砧木があつて、むしられたりほじられたりしたのであらう、今が三度目位の芽はやう／＼三四寸出て居るのである。

鶏は夫婦二羽しか居ぬが、宿の老夫婦とは正反對の、大のハイカラで、丈も高く體も大きく、脚に羽毛なんか生やして、肉でも卵子でも日本種に負けない。而も下手な調子で雄は毎朝歌ひ、雌は三月から一日も缺かさず大きな卵子を産むそうで、老婦の感嘆に價して居る譯である。二歳の我が兒は、時々この鶏を指し、顔をくづしてトウトウトーとやるのもまた面白いのである。

鶏小屋や、その左側の明き地や、我が花園の向ふは、蜜柑畑で、葉は綠益々濃く、葉がくれの萬顆の實は、今や生育の最中である。此蜜柑畑の入口や周圍には、南瓜もある、冬瓜もあり、玉蜀黍もあり、菊も冬顏も植えられて、吾が保養的放浪生活を飾つて呉れるやうに思はれ、田園の趣味は一しほ増すのである。

●我が宿の眺め（七月九日）

起床して楊子を使ひながら、南瓜棚の下を拔け、蜜柑畑の横を通つて十間ばかり行き、土手へ上つて老松の根元へ出ると、眼下一望の太平洋。あゝ心地よい。何たる壯觀であらう。

暫し恍惚して居ると、行き過ぎるものは皆「おそろしい波／＼」と細語く。なるほど左様云へば大きい。何時ならば多くの漁舟が、沖にも濱にもゆら／＼して

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居るのに、今日は一艘だも見えず、而も皆んな土手際へ引き上げてある。此間から評判せられた土用浪と云ふのは多分これであらう。われ太平洋と親しむこと二ヶ月、朝に夕に其の斥を聴き、またやる勢なき我が思を容れられ、ともすれば波打際を低徊去り難きこととも あるのである、人よ、暫く此の激波を詩観せずや。

とみれば、翠波山の如くうねる此方より彼方へ、長く霞んだ伊豆半島は、高き低き一帯をなして、静な大空と猛き青海原との間に眠つて居るかのやう。また左手一二町の處に聶と天を突いて、其の削れた脚下を波に洗はせ、老松の衣、無線電信柱の冠を着た虚空藏山。その那閉神社なる山巓は獨り此間に嘯いて居る。なほ右手午前岬の方を見ても、我が宿の眺めはなかなかに盡きぬのである。

●二葉の花（六月十日）

そろ〳〵花の咲く時節に、漸く種子を蒔くとは、さて可笑しいやうだが、そこが面白いのである。殊に妻は花の二葉時代の形態を研究爲やうなどとしやれて居るから、假令花が咲かぬにしても、充分生えて出た丈けの、草花の職分は達せられる譯けだ。

さて、其妻の研究爲やうといふ大々的事業はと云へば、草花が二葉の時同じやうな形して居ても、本葉が出てみると、形が全然變つてしまうことが多い。尤も甲折葉が二個出るのを双子葉植物と學者は總稱して居るが、それでは物足らぬ。今少しお互の間に本葉との形の關係があるのであらう。と云ふところから研究するのだと仰有る。なる程幼稚な考へながら、我々が難かしいとして居る二葉植物の種類鑑定上及び、植物子葉の形態研究上にも資する所があるので、主人公も至極贊成した譯である。

ところで我が花園には、六月二十九日に播種して以來、三日程經て早くも二葉を出したジニヤを初め、昨日も今日もといふ風に、どし〳〵二葉が生えて來る。種子を被つて出て來るのもあれば、土中へ殘して下へ根、上へ莖葉を出すのもある、形も色合も皆な少しづゝ變つて居て、殊に特別の形態は出來て居るが、さう

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たいした變化はない。けれど、カーチーションの細い光澤のある葉の者でも、二葉の時は光澤もなく細くもないのである。また金蓮花のやうに丸い葉の二葉が切れて居て、コスモスのやうな細かく切れた葉の二葉が、楕で切れて居なかつたり、注意すれば此の間の消息は隨分趣味があるのである。妻も面白いと見えて、坊の寢た間に寫生(不手際ながら)したり押葉にしたりなどして、喜んで居る。

＊　＊　＊　＊　＊

△夫れ物、芸々として各其の根に歸る（老子）

△予獨り蓮の汚泥に出でゝ染まず、淸漣に濯て妖びず、中通り外直ぐに、蔓あらず枝あらず、香遠くして益々淸く、亭々として淨く植ち、遠く觀るべくして褻れ翫ぶべからざるを愛す（周茂叔）

△木强ければ即ち折れ易く、革固ければ即ち裂く。齒は舌より堅くして之れに先ちて斃る（淮南子）

●お話の材料（二種）

●極々吝嗇坊の英吉利人が二人の息子を印度見物に出し、見送つて別れる時「よくよく出さなくてならぬ時の他は、電信をよこすな、電信は非常に料金が費るから」と誡めました。息子共は暫らく印度に居慣れた後、一日虎狩に出掛けましたが、其後で兄息子からロンドンの父の所へ至急電報で「弟が死んだ。」と報知せて來た。すると父から「我家へ送れ」Send Home と電信をうちかへした。

程すぎて印度から便船が着き、埠頭から父に宛てた大箱があるとの通告に、テツキリ弟息子の死骸だらうと往つて見れば、箱は非常に大きく、そして重く中を開けて見るとコハそも如何に、弟息子の死骸ではなくて、虎の死骸であつた。父は驚くまい事か、直に息子に電信をかけ「荷物違ひではないか、虎の外には何にもないと。Some Mistake; Nothing in box but tigar 尋ねてやつた。すると、其返電に「何も間違ではない、弟は虎の腹の中にある No Mistake; Lim inside tiger. とあつた。

●煖爐掃除の小僧が、たつた二錢しか持たないで、ロンドンの或る街の飯屋の前に來て、腹が減つて、たまらぬけれども晝飯代には足りないし、喰ひたいには喰ひたしで、美甘い臭を嗅いで立つて居ると、料理番が出て來て此小僧を捕へ「コラ小僧！手前は好い加減にして其處を失せろ！晝飯代の半價を拂つて往け!!」と恐い眼をして怒鳴つた。

小僧は食ひもしない晝飯代を拂ふものか、金があつたつて拂ひはしない。」と言ひ爭つて居るところへ、巡査が來懸つて爭論の譯を能く聞いて「お前は幾何お金を持つて居るのだ」と小僧に尋ねましたら、小僧は「たつた二錢しかない」と云ふので巡査は「それでよい。それを兩手の中へ入れてカラカラと振りなさい」と申し附つ小僧が其通り振ると此度は料理番に向ひ「小僧はお前の料理の臭ひを嗅いだばかりだ、お前は今小僧の錢の音を聞いた。是で相方埋合せたと云ふものだ何方らも不足言ふことはならぬ」と申し渡したとは面白い順智と云ふものではありませぬか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「學生情死問題」餘論

峽水君は余の友なり。前號の誌上に「學生情死問題」を公にして、欠陷ある現社會を罵り、駿れて血に豐かなる靑春の男女の爲に熱烈の氣を吐けり。其語句華やかにして文章百花の咲き亂れたが如し。余はこれを讀んで、議論と云ふよりは寧ろ一篇の叙情詩に接するの感なくんばあらざりし。

思ふに君の齡や、未だ廿歲を超ゆる事三四に及ばす、從つて、其思想と感情は未だ老實沈着の域にあらずして、一に夫れ若き熱情と若き純潔の美しさのみ。其文を讀めば常に叙情の詩なるが如く歌なるが如き、敢て其間に疑ひを挾む理由あるを見ず。余が君のなせるかの一篇を誌上に掲けたるは、此混沌たる明治の思潮界にありて、尙ほ且つ斯かる熱情と純潔とを把持せる一部の靑年のある事を、社會に向つて誇らんとしたりしが故のみ。人生の夢甘き戀愛の花、そは靑年の花なり。靑年の生命なり。狹き實利の道德觀は、全くこれを蠶毒するもの、八幡濱に於ける學生の情死は、未た痛切に現代の罪過を贖ふの資格を有せずと雖も、これに依てまた時代の醜き反映を多少看得せられ得ざるにもあらず、余は美しき靑年の爲めに一の責任を盡したる峽水君に對し、無限の同情と感謝の意を表するものなり。

今、山陽の高橋柳水と云へる人より、此事件に關し、質實なる一文を草して送らる。其明斷の議論人をして首肯せしむるに足るものあり。即ち余はこの篇を以て峽水君の「學生情死問題」の結論となさん事を欲し、こゝにこれを公にせり。（渚）

前號に峽水君の學生情死問題と云ふ文を讀んで、其温情に感服したが、而し其意見には敬服する事は出來ない。素より僕は下宿屋樓上の一青年、未だ家庭の何んたるを解せないもの。從つてかゝる意見を發表して世に問ふ資格の無きもの也。けれど、僕には一個の宗敎の信念がある、些少宗敎の智識がある積である。ソコで、敢て峽水君に反旗を飜して堂々と一議論やろうと云ふ考へでは決して無いが、只た僕の立ち場から僕の意見を陳べて見樣と思ふ迄である。

まづ愛其ものゝ解釋を下して見よう。世に言ふ愛とは佛敎の說く所の大慈悲と、基督敎に敎ゆる所の愛と同じであるかと云へば、慥に同體のものであると云はねばならぬ。而して基督敎に說く神の愛とは之に浴せば春の神に遇ひ奉るか如く之を仰けば秋の神に向ひまつるが如き威あり温あるもので、決して此の間一點の汚れたる心をもて接し交ゆる事は出來ない。即ち吾々は總ての汚穢なる心を去らなければ、神の愛に浴し其の愛を受くる事は出來ない、よしや神は罪の子なりと

て吾等を捨て給はざる可しとは云へ、吾等にして罪あれば決して神に救はるゝ事は出來ない。去らば吾等は悔ひ改めてこそ、初めて神の其の多くの子に對せらるゝ暖き愛の如き愛を得る事が出來るのである。亦佛陀の大慈悲然りで、神の愛より一段の廣さ深さで、即ち聖典には草木國土悉皆成佛と說いてある。元より之は哲學的思想より出でたる聖句なる可きも、此の内には溢るゝが如き佛陀の涙の籠りては居まいか。即ち人間は愚か草木と雖も國土と雖も、其情と非情は更に語らじ。皆之れ眞如より緣起せるもの、六大より所生せるものなれば佛にあらざるはなし。去れは草木國土も之れ吾と同し。頭を打ちて痛からんものは草花の可愛きを想ひて猥りに折るな、脊を打ちて苦しからんものは可憐の禽獸を猥りに殺害する勿れ、と、誠に草木禽獸に至る迄の厚き同情の御聲ではあるまいか。然り慥に佛陀の吾等に垂れ給へる廣大無邊の大慈悲の御聲である。吾等は此の大慈悲に浴する事を得て、始めて聖位に到達する事が出來るのである。玆に到れるの吾等は最早や一片の煩悩も無い。友には深く、親には孝、國に忠、妻には親、子には情き、誠に理想的圓滿なる人と云ふ事が出來るので、淸き尊き慈悲を有する人なのである。世間に所謂、愛とは誠に如此尊きものを言ふので有つて、譬ふれは神の如き、佛陀の如き神聖なるもので、決して汚れたる心や、私意私欲にみち〳〵た心を以つて冒すことの出來ぬものである。玆に到達して初めて神聖なる戀を語る事が出來る。戀と愛と一致するとは此の境であらうと想ふ。僕は未だ十五六の少年の頃であつたから能くは覺えぬが、蘇峰の主管せる國民の友と云ふ雜誌に、ある外國婦人の所を訪問せしに、其婦人の床上に一の寫眞と、バイヲリンの小なるものを並列して有り。幾度訪れても此二品は何時も位置を換えず、而も折には花を挿して飾つてある事もあつた。あまりの不思議さに仔細やあらむと尋ねると、彼の女は莞爾として語るらく、妾に相愛せし夫あり、共に二世の契りを約せしも如何せん、彼の夫と妾は宗敎の相違あり。今之を押て其棲の夫婦となる、將來決

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して圓滿ならんを希ふも能はざる可し、必ずやお互に破鏡の嘆に沈むの折りやあらむと。其後は共に約して宗敎の一致する曉を待ち、そして夫婦を神に誓はんと、淸き友達として交りし事五年、去れど何れの信仰や深かりけん更に一致せん樣なし。於玆乎、相語りて君も緣無き者と諦め給へ。妾も而か想ひ、淸き友として相愛し、美しき交を神かけて永代に續けん、さらば君よ、去つてホームを作れ、妾もつくらむと相別れし折り、紀念にとて贈りし物は此寫眞と樂器、彼は今ま暖きホームを作り、既に一子を擧げ、誠に圓滿なる生活を續けつゝあり。去れど妾とは今日も尙は友として往來せり。とあつたのを朦朧に覺えて居る。其の淸き戀の如何に尊きかは、其當時より十年間も僕の腦裡に印象して去らず、此二人者に多大の尊敬を拂ふと同時に又慕ふて居るのである。之れ佛陀の慈悲の如き、神の愛の如き、神聖にして冐す可からざる愛であるからであらう。戀であるからであらう。僕の信んずる愛は如此愛であるのである。戀であるのである。

翻つて學生の情死するに到る程の愛とは、かやうの尊き愛で有らう乎。戀であらう乎。僕は決して斯く信んずる事は出來ない。若しかゝる神聖なるものならば、親の許を得ず、世間の許を得ずして死ぬる必用は更に無いのである。吾等はよし冷刻のきらいは有う共、情に刺擊せられて、獸欲的交りを神聖なる戀とを交泥しては成ら無い。情死せねばならぬに至る迄の靑年男女の交や、果して獸欲的肉交は一度でもあるまいか。僕は甚だ冷刻乍ら此の點に於て彼等に左袒する程の膽力をもたない。彼等の玆に至れる迄は必ずや、竈を通ふ猫の如き、街巷に吠ゆらん犬の戀の如き、賤しき汚れたる肉欲の交を幾度したのであらうと思ふ。神聖なる戀は決して人の一身を過る程、人の思想を錯亂するやうな積らぬものでない。今少し平靜に、今少し分別あるものと化せざれば止まない。然るに未だ學途にあり、人の子弟たる若き男女にして、其一身を所置する事の出來ない程の者が、戀よ愛よと騷ぐのは既に平靜を失して居る。必ずや彼等の間には肉欲が雜へられて居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のである。若し然らざれば、如何に青春の血燃ゆるとは言へ、自分等の業成る迄は、共に相勵み共に辛抱して待てぬ事は無い。斯く成業の曉に親に語り人にも語る、如何に頑固なる雙親も、如何に冷刻なること水の如き社會も、眞逆にそれを妨げる力はなからう。否な神聖なる戀にして、意志さへ健固なる者なりせば、さらでも子に涙多き親は許すのである。彼等が此位平凡なる理屈の分らず、相抱きて死すると云ふは、既に其平靜と常識を失して居るからで、其平靜や常識を失したのは、どうか早く家庭を造りたい。相思ふ同志が面白お可笑しく手鍋提げての痴話生活をして見たい。同じ下宿屋生活でも恐る〳〵交際をせず、少く共人に見らるゝ、共愧かしき思をせぬ程の仲になつて見たい。と云ふ極く近眼的欲望、言はゞ無邪氣な子供の遊び事の樣な欲望を、遂する事が出來なくなり、終に彼等をして平靜や常識を失ふ迄に至らしめたのである。だからして、彼等は既に死の境に達する迄には、幾度も肉欲の交りをして居ると云はねばならぬ。抑も彼等が戀ひし初むる當時は、理想や人格からでなくして、途上チラと相見た其仔細らしき容姿が多く動機となつて居る。譬へば、情死したものが十中八九、可なり澁皮の剝けたのであるから見つても、其間の消息を知る事が出來る。去れば、如何に西洋は自由を尊ぶとは云へ、決して青年男女が親の許し無くして、肉欲上の交を結び、其に依つて生ずる汚れたる彼等の狂的動作はこれを神聖の戀とは云はない。啻に然る而已ならず、大に厭み嫌つて排斥して居る。比較的青年男女間に自由を與へられてある西洋既に然り。況んや、日本の社會に於ては、かゝる肉欲的戀情は神聖所では無い、寸分も許さない。殊に此の汚れたる動機より生ずる總ての動作出來事は、寸分の同情す可き所がなき而已ならじ、大に膺懲の鞭を加へねば、さらでも頽破せる日本現時の青年の風紀道德を如何せん哉である。僕は新紙上青年男女の私情に攻められて情死せるの記事を讀む每に、彼等の意氣地なくして意志の薄弱なると、公情と共に死せずして、私情の爲に命を捨つる事の愚なるを、憐むの涙滂沱として溢るを禁じ得ないのである。

僕素より活ける劇詩としての美は認て居る。けれど、其の美や美にして、勸め、且つ同情して求む可きで無い。如此甚だ面白からざる劇詩は社會問題として大に救濟の方法を講せなければならぬ。之を救ふの道は一に宗教の味を知らしむるにある。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理科問答

▲草木を魔醉さすことが出來ますか。

實驗に據りますと彼の眠草をコロ、ホルムに依つて、全く動物のやうに魔醉さすことが出來ると申します。眠草と云へば、鳥渡手を觸れても、音をたてゝ葉片を閉ぢ、總葉柄を垂下すること、全く生命あるものゝやうですのに、コロ、ホルムを嗅がせますと、幾何手で觸れても叩いても少しも葉を動かさず、葉柄も垂れぬのです。亦總葉柄を折つても水分が平時のやうに流れ出す、誠に不思議なくらゐだと申します。これは結局コロ、ホルムに魔醉されたのであります。

▲毒草の判定法はありますか。

別に「法」と云ふてはありませねど△莖葉中に白色乳樣の液、黄或は褐色の汁を含むもの△嗅げば惡臭あるもの△莖葉中に含む汁を味へば、口中を刺戟するもの△紅或は青色の美果を結び、而も名の能く知られざるものなどは、先づ〳〵毒あるものと認めねばなりませぬ。

▲夜中朽木の光を放つは何の爲めですか。

これに就て種々迷信的の説明はありますが、詮議すればナホド不思議な事でもありません。彼の冬季カマボコを數日間貯へ置くと暗夜に微光を放つのに同じく、長さ一粍の二千分の一に足らぬ一種の微生物の生理作用に他ならぬのです。此小生物は好んでカマボコの腐敗したのや、朽木の外方に繁殖し、其自體から光を放ちますので（つまり光線を反射する作用自然に備り居るものとみゆ）發光細菌と呼ばれて居ります。併し這那小さな者の一匹や二匹では光どころでありませぬが、生活に適する場所では、一晝夜にでも億兆以上殖えますから、遂に微な光を我々が認めるやうになるのです。

▲場所により河骨の葉柄に長短あるは何故でせうか。

河骨は水中から生え出ますが、根は矢張土中です。而して其葉は、魚のやうに水中で呼吸出來ませぬ（しても僅か）から、どうしても水面へ出やうと致します。處で不都合なのは根生葉（莖が短縮し殆ど根から葉の出たやうなの）ですから、莖を長くする譯に行きませぬので、まづ葉柄を長く延し、葉を水面へ捧げ上げねばなりませぬ。そこで水の深さ一尺の地中に生長した河骨と、深さ五寸の處に生た河骨とは、葉柄の長さも矢張五寸と一尺の割に違ふのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雜話一束

てき生

○余嘗てウヰリヤムペンが其子に勸むるの書中の言によりて一誡を作る。諸賢の爲めにこれを左に記し見ん歟。

爾朝目覺むるや、直に爾の心を沈めて神を待つべし。かくて後、起き出でゝ主禱と聖經の一章若くば數章を讀み、了らば必ず缺くることなく、愉容を以て皆共に働の朝餐に就き、然る後職務に勤勉すべし。一日の業終へて、愛の晩餐を樂まば、又眼を閉づる前に主禱と聖經をさゝげ、默念すること尙ほ朝に於けるが如くすべし、斯くて神は常に爾と共に在り。

○舊家庭には信書の神聖の重んぜられざることは久しきもの也。そが子女監督の上からとは云へ、その子の品性を信せず、その子の人權を重んせず、はた又、正しからざる道によりてせる敎育監督はそも何等の効果ありとかすべき。寧ろ却てその子を賊するものとはせずや。ゼントルマンたれ、レデーたれとは英國に於ける家庭敎育の唯一のモットーたり。抑へんとすればつけ上るは人の情なり。得て惡智は束縛裡より生じ來る。世の父兄たるもの深く留意すべし。殊に、この種の人權蹂躙が敎育界にも、亦監督の名の下に行はるゝありと云ふに至りては、これ由々敷大事と云はざるべからざる也。

○階級的臭味、貴族的臭味のある家庭ほど鼻持ちのならぬはなし。家庭は平等、博愛の心情に充ちてこそよけれ、下女下男などのさも劣等の人種の如くにへだておくは、唯だに子女の慢心を高からしむるに終らんのみ。さるにても、鷄犬に迄も一家の愛情の及ぶ所こそめでたけれ。家庭の樣にて人々の品性は見ゆるものなれば、殊更らに主婦の注意は望ましき限り也。

○鷄犬と云へば、養鷄や園藝などは、繪畫閲書などの如く、趣味の上よりも、將た亦實益の上よりも、無事の家庭に與ふる慰藉なるらし。殊にこれ等を適當なる方法もて子女の業務とせば、彼等に注意心と自助心と

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を與ふる上にも、少なからぬ養ひとなるべし。子女に自助心を與ふる爲めには、米國などにて樣々に苦心されつゝあるが如きも、餘りに實益に走るは却て害あるものぞ、家庭内のことは俗界を離れたる清新の氣味ありてこそよけれ。

○吉田松陰が福原又四郎に與へたる書中に云へることあり。彼等或は又背き去ると雖も、蓋し村塾爐を圍み、徹宵の談を忘れざるべしと。冬景の清瘦、冬景の豪健、皆酷愛すべきなきには非ずといへど、而もその最たるものは乃ちかの爐邊の小集に如くは非ず。夏時には、夕顏棚の下涼みと共に、知人や隣兒等を會して快談を樂しむは、家庭の單調に趣味を與へ、且つは又何にかなし修養の道ともなりぬべし。尤も澁茶以上の費は却てその本旨を害するものと注意すべし。

○論語に、曾皙が孔子の問に對してその志を謂ひけるに、暮春には春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風して詠して歸らんと云へるあり。誠に樂しきことなるべし。然るに、かく一家を携へて郊遊の樂を衆と與にするか如きことは、かの外國にはよくあることとなれど、わが國にはその例少きか如きぞ遺憾なる。わが國の樂みは個人的にして又家内的に、不健全なると共に、又不養生なるもののみ多し。改むべきもの丶一つ也。

○上に述べたる、爐邊之集、浴沂之遊なぞの如きことにより、われ一の家庭暦を作らんと思ふて未だ得ず、たとへば、十一月三日の天長の佳節はこれを新重陽之會ともなし、四月三日の神武天皇祭はこれを觀櫻之會、二月十一日の紀元節はこれを探梅之行ともなし、又七八月の交には夕顏棚之下涼會にても催し、斯くかゝる種類の暦日を大凡月一回位に定め、以て互に家庭間交樂の日ともなさば、如何に面白かるべき。偏に名案をわか讀者諸君の間に募る。尤もその日は休日か休日の前日に當る樣にし、特別の意味を有せず、一般的にし(たとへば自己の誕生日なぞはその暦日に加へざるか如し)又、その名も成るべくは優美なるを可とせんと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

希臘神話

星の話

(小供の爲に此の美しき名高き話を折々譯して出すべし)

シーシアスといふのは膽の太い年若な王子で、幾多の冒險を試みた偉人ではあつたが、此話を讀めば判かる通り、剛者であり乍ら餘り信切な仁でなかつた。

シーシアスの父は亞典の王樣であるが、毎年齡の若い七男七女をクリートの王樣に贈らなければならなかつた。クリート島は希臘の東南に在て、東洋から歐洲に航る時に、先歐洲の一部が見えるのは此島で、山々が鋸の齒の樣に峙つて高く見えるのである。何故七男七女を遣るのかといふに、其クリート島の巖穴に、ミノターといふ牛頭人體の恐るべき怪物が住で居ので、其御氣嫌を取る爲に贈物とするのである。此洞穴こそは八幡の八幡知らずで、一端此洞穴に足を入れたものは、一人として歸つて來た例がない。亞典の都の人々は自分等の子供か犧牲に執られはせぬかと、始終ビク〳〵して居り、子供らも亦此恐ろしい御怪物に食れるのを怖がつて居た。

然るにある年のこと、例の犧牲の鬮引か濟んで、當籤の七男七女は彌々最後の門出をしやうとして居る。處が件の王子は其犧牲の内の一人の身代りにならうと仰せられ、彌々黑の帆をあげてクリート島に向け舟出した。見送る人々は此若樣の非常な剛の者であるのに感しないものはなかつた。

此哀れな一行がクリート島に着くと、間もなく王樣に謁見し、廟堂に案内された。然るに、アリアドニーといふ王女も其塲に居合せてシーシアスを見るから中々の美男子でもあり、また非常にえらい人だと思ひ、こんな好い若殿をミナターに喰殺されるとは情ない悲しい事だと感じた。そこで、親御が見て居ぬ間にソツと此若殿御に寄り添つて、八幡知らすの洞穴から逃る事が叶ふ樣に、一筋の糸と其殘虐な怪物を退治する業物一振とを手渡した。

さて、王子は此等の賜物を受け收めて、彌々其巖洞に踏み入るや否、其糸を出口に結び付け、一行を引具してまだ深くも進まぬ中に、ミナターの腹の空いた唸り聲が聞える。一行は慄然とシーシアスにからみ付いた。シーシアスは腰の一刀を拔き拂つて、ツカ〳〵と恐ろしい怪物の方に進み、一撃の下に之を退治た。其から其糸を便りに一行を連れて出た。

王女は此剛膽な若者が無事に歸つたのを見て大さう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

嬉しく思ひ、シーシアスが亞典に歸航する時には王女も隨伴して舟に乘つた。彼等はさも愉快さうに航して、遂に「ナクツス」といふ美しい一つの島根に來た。そこで、舟から上つて、樂しげな樹陰を長い間散歩したが、王女アリヤドニーは疲れて來て、涼しい葡萄陰に身を投げ出して休んだ。休んで居る中に、王女は眠つてしまつた。すると、シーシアスはコッソリと逃け出し、此離れ小島に王女たゞ一人を置土産にしてしまつた。是が不信切でなくて何であらう。哀れなものは王女で、目醒めて見れば實に驚いた。叫んだけれど答ふるものは更に無い。蒼海の天と相接する遙かかなたに、黒い帆影が見えなくならうとして居る。王女は始めて見棄てられた事を讀んだ。王女は何時迄も冷たい岩の上に座つて、若やシーシアスが返り來るかと、潮路はるかに見送つて居たが、シーシアスに似た王子も來なかつた。夜になつては王女の啜りなきする聲と、海の啜泣する樣な波の音とがまじつて一層悲しく聞え、泣き明かした翌朝の目は曇つて見えた。

或日の事、王女は島の岸邊へかなしげに座つて居ると、海のあなたから樂しい笛の音が聞え、次で人の呼ぶ聲がする。見ると、王女の方へ波に揺られて小躍りする様に小舟が來る。近くなるにつれて紫色の葡萄が澤山積まれ、葡萄の葉冠を被ふた人々が乘つて居る。此は酒の神樣のバッカスと其一行であつて、此島はバッカスの領地なのである。

最初は王女も恐く思つたが、此神樣は如何にも樂しさうに信切げな顏付きして、側近く漕ぎよせたから、王女は斯の次第を物語り、泣きながらバッカスの前に立つた時は、バッカスは世にも珍しい美女だと思ひ、伉配となれと求めた。彼等がいよ〳〵結婚する事となつて、此神はピカ〳〵光る寶玉を鏤めた黄金の冠を王女に與れた。

夫婦は手を取て樂しい月日を送つたが、哀な事には王女は人間の種を受けた。死なねばならぬ身で女神ではなかつた。王女はやがて病みついて、其死ぬべき命數を讀んだ。バッカスは非常に之を悲しみ、常に王女を忘れぬ片見を切にほしがつた。そこで、バッカスは王女が自分の肩に頭を垂れて横はつた時、王女の寶石入の冠を取つて空に投げつけた。すると、寶冠は高く高く上つて行く。寶玉が高なるに連て光が増て來る。遂に其がみ空の底に收まつた。さればこそ、今日迄も星となつて永久に美しく輝いて居る珠の冠を見ので.ある。

料理二品（石井式）

●チッキンライスの拵方

原料

鷄肉　四斤　鹽　小匙一杯二匁
胡椒粉　四匁　鹽　四匁
洗米　七合　ヘット（小匙）二杯
牛酪　三十匁　カレンズ　一合
スープ　六合　葱頭（大匙）四杯
胡蘿蔔（大匙）四杯　スープ　八合四勺

ソース用

牛酪　大匙一杯半餘　二十八匁餘　メリケン粉　大匙大一杯　五匁内
トマトソース　大匙七杯　五勺餘　スープ　四合五勺

鳥肉一片を二つに切て、それを二つに斜にへぎかくる様に切こみ、鹽と胡椒をふりかけおき、フライ鍋にヘットを入れて、其中へ入れて煎る、さて三分間して、うらがへし、いりて、上よりスープを入れて煮こみ、十五分間經つて後、皿へ鳥を取上て、あとの汁を煮つめて置く。

釜に、洗米を入れて、少し木杓子にて攪まわし、牛酪を大匙にかるく二杯入れ、尚ほカレンズ（水にて洗ひたるまゝじゆくを取らず）を入れ、それより、にんじん、たまねぎの、能くきざみたるを、大匙八杯餘入れて、木杓子にて攪ませて煎る。二分間して、鹽を小匙に一杯入れ、次に鳥のスープ八合四勺を絹漉にして入れ、よく攪まわして、蓋をなし、炭火にかけ、たくこと、十四分間にして、おろすのである。

ソースは、深き鍋に、牛酪を入れ、木杓子にてめぐらして、メリケン粉を入れ、よくあはせて、トマトソースを入れ、よくあはせて、鳥肉スープを一合五勺程入れて、ぬる火にうつして煮こむ。さて、後にスープ三合ばかり入れ（煮つめ置たる汁を用ふ）、先に取上おきたる鳥肉を入れて煮ること。

（盛方）　むらし置たる飯を、珈琲茶碗に、木杓子にてつめて抜出して（皿の上にふせて）、其前に鷄肉を盛合せて、ソースをかけて出すべし。

●林檎菓子（アラチンベッテイ）の拵方

原料

林檎	小の大	十五箇
パン粉	大匙十杯	三十匁
砂糖	大匙七杯	五十六匁
ナツトメツク	にくづく	三箇
牛酪		二十匁
湯		一合

先づ林檎の皮をむいて、たて切に切り、心をえぐり取ること。さてそれを六ツ切位にして、パン粉を敷いた皿の上へならべる。それから、其上へ砂糖をふりかけ、又パン粉をふつて、林檎を一面におき、其上に砂糖をふりかけ(一だんにて細切を二十五位として四だん位にかされて)一ばん上にパン粉をふりかけて、其上へ牛酪をこまかにちぎり、所々にのせ(ちら〳〵とのする)湯をめぐりよく入て、

○にくづくは、おろし金にておろし、砂糖をふりかくる前に、少しづゝふりかけ、いく度も一重づゝふりかけて、

暖爐に入れ、天火にて、下火少しにて、むし燒にやくべし。一時間内にて出來るなり。

田舍の小家庭

中非橘胤

國は數郡集りて成り、郡は村の集合にして、一村は個々家庭より成立す。而して、一國の元素たる其の家庭は、愛情を以て融合團結せるものにして、家庭の平和、圓滿を形成せる愛情は、抑も何所より出で來るか。由來婦人は愛と情とより成れる愛の化身にして、家庭にありて夫の同情者となり、子女の鞠育者となり、同胞に對するにも、すべて皆な美しき情緒を以て纏綿するなり。

今田舍に於ける家庭を見るに、其多くは主宰者なる婦人の教育充分ならず、從つて家庭の平和、慰安を充分に獲得せられざるは事實なるも、而も割合に其の人情の上に於て宜きを得たる所以は、一に農村は都會と異なり、人家稀にして家々孤立せるが爲め、隣家と雖も往來會談の機會少なく、自然一家の親密愈々濃厚な

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るなり。又彼等は常に天然を尚友とし、家畜家禽を飼育するを以て、人と交際するにも着實誠心の美を有す。然るに、近來田舍人が百年の古郷を去り、都會に移ること稍々增加せし傾あるは、實に農界の爲めに慨はしき至りなり。

或人は論ずるならん。今日生存競走の烈しくなるに伴ひ、田舍人が大志を抱きて都會に移るは自然の勢にして、寧ろ賀すべき事なりと。然し、一國の生産事業に着目し、家庭の趣味を充分解せんと欲せば、宜しく田園に移るべし。何となれば、家庭の眞の趣味は此の浮世の競走より離れ、神聖にして閑靜なる所に住居するを要するものにして、且つ人と住居とは關係太だ密、其の關係たるや、啻に單純なる經濟上の利害得失に止まらず。抑も田舍に於て自家所有の土地に住居する事は、都會に於ける借家住居よりは、生理上身心の良好を期待すべきのみならず世の信用を增加し、事業の成効上利益する所多く、且つ隣保相互の感念は強く、家庭の趣味を高からしむるは信じて疑はざる所なり。斯かる良好なる現象あるにも拘はらず、單純なる經濟の不平、又は物質的虛榮心に制せられ、都會生活の僥倖心に驅られ、現今の靑年の多くは理想の家庭を都會に於て造らんと夢つゝあるなり。加之、田舍の子女が都會に移りて、浮華淫風に感染し、遂に故郷に歸ることさへ能はざる境遇に陷り、苦痛煩悶の家庭にあたら人生を空しく不愉快に過すものあり。近眼の甚しきものと云はざるべからず。

余は此等の年少男女に對して望む所は、都會にて充分に敎育を受け、古郷に歸りて慰安ある平和なる家庭を形成する事なり。同時に、田舍に於ける家庭の缺點を補ひ、改良し沒趣味なる田舍をして趣味ある活氣ある農村と變化せしめ、國の生産者たる農民を助け、勞苦を慰むるは、慈善博愛の先導者たり、平和、調和、慰安、愛、同情の占有者たる婦人の社會に對する義務ならずや。殊に農村に於ける家庭の樂が、農村の衰退と共に減却する當代にありては、一層の強き決心を以てこれに當るを要す。若し或人の論の如く、人生の一大事實は愛と働なりとせば、田舍に出で、働くは人生の一大事實に達せるものにあらずや。現今の靑年諸氏及將來の家庭者たる人々、殊に婦女子に於ては、現今田舍に於ける家庭をして趣味ある活氣ある平和なるものに形成發達せしめずんばあるべからず。

筆ついで　浩山

▲由分社少年叢書　今度吾等の企てた少年叢書著述の事業は、甚だ急突のやうですが、實は腹案は以前からあつたのであります。世間には此種の讀物が澤山ある。美しい奇麗な本がある。吾等の少年叢書は外観を飾らぬかも知れない。田舎者のやうな姿であるかも知れない。併し著述者の頭腦には多少の考へがある。飽く迄も「由分社」的思想と、主義と、意氣と、態度とを以て、諸君にまみえやうと思ひます。題目に「少年」と云ふ文字があつても、必ずしも少年者專有の讀物と云ふには及はぬ。幼き愛兒や弟妹を持つ方々にも、是非共一讀して戴きたい。これは著述者の希望であります。

▲越後の村澤氏へ　貴作の狂歌や長歌、屆きました。無論斯う云ふ趣味も亦必要です。折々掲載する事にします。「一茶」の話、兎に角拜見致したいものです。

▲愛媛、外山氏に　兄が芳しき同情の言葉は、ます／＼吾等をして奮發せしめる斗りです。感謝に堪へず。

▲湖邊の浮草生へ　其經驗は中年より信者となつた男女に多いやうです、これについては、次號にでも少し書きたいと思つて居ます。宗教談も直接でなく、間接にして載せる積りです。

▲岩代の遠藤君へ　情切なる書翰、意味深く拜見した。同胞の爲にいよ／＼御盡力を願います。（以上浩山）

▲森澤君へ　御尋れの梅の接木は、今年お植へになつて一尺内外もあれば、來年咲くかも知れません。けれど素人の栽培なら先づ／＼難しい事と明めなさるがよからうと思ひます。又、お蒔きなさつた桔梗の種子が生えぬのは、古かつたのでせう。これから種子は第一に良いのを信用ある商店から求めるやうになさい。お送り下さつた滿州のカラシはだいぶんおほきくなりました。お志を謝します。

▲神奈川縣房子君へ　空閭の空地へ果樹をお植へなさるのは贊成です。園内は廣いさうですもの一本や二本お植へになるのではなからうから、種類や培養法には注意を當初よりなさるがよいと思ひます。植へ付るのは秋遲くですから、それまでに東京神奈川附近に適する果樹の種類及其の中の變種について、改めて述べませう。實は私の經驗は北陸で得たの故、斯樣の問題であると、少々調査もして責を帶びて答へればなりません（以上二葉生）

〰〰〰〰〰〰〰〰

▲御ことわり

何とも申譯がありませぬが、今度は「新聞三面記事評釋」は迚も間に合ひませぬ。とばかりでは餘り心が濟みませぬもの、左に事情を開陳して御宥恕を乞ふ。

一、兄弟分の幸德秋水が巣鴨の獄から出て來たので、丁度この原稿を書くべき日取を、スッカリ其騷ぎに費してしまひました。

一、八月十八日亡妻の一週忌の紀念に「牛生の卷」といふ小冊子を發行したいと思ひて、其の爲め月末の數日を取られてしまひました。

事情右の通りなれば、讀者諸君に於かれても必ず御諒察下さる事と存じます、よろしく紙上に御披露を乞ふ。

廿九日朝

浩山兄

改良ロンテニス

二重枠ラケット一組

一號品	一二、五○○
二號品	一一、○○○
三號品	八、八○○
四號品	七、四○○
五號品	六、七○○
六號品	五、七○○
七號小學用	四、七○○
八號婦人用	六、○○○
九號婦人用	七、○○○

ピンポン室内テニス

一號一箱	一、二二○
二號同	一、五○○
三號同	一、六八○
四號同	一、八三○
號外同	○、八八○

改良テニスネット

一號一張四間半	一、七五○
二號一張五間半	二、三五○
三號一張六間	二、四五○
四號一張七間	二、九五○

ゴム入フートボール

二號一個	四、○○○
三號同	四、五○○
四號同	五、○○○
五號同	五、五○○
六號同	六、○○○
七號同	六、五○○
八號同	七、○○○

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五

安藤商店

電話本局四百八十四

特附一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

資本金百萬圓

最も精確且嶄新なる方法により
最も簡易且懇切なる取扱をなす

資本金参拾萬圓

東京日本橋通二丁目
日宗火災保險株式會社
（電話本局二一二〇番）

東京日本橋通二丁目
日宗生命保險株式會社
（電話本局一〇三〇番）

保險案内御入用の方へは御申越次第進呈す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○岡野[illegible]君著 少年週話 定價二十五錢 郵税四錢

○吉谷新太郎君編 はなしの園 定價二十五錢 郵税四錢

○キングスレー君著 榊原守文君譯 テトス物語 定價三十五錢 布表紙四十五錢（郵税四錢）

○三戸吉太郎君著 神之話 定價二十二錢 郵税四錢

○スペンサー嬢編 わらべの友 定價七錢 郵税二錢

○トーレー氏著 人をキリストに導く法 定價二十錢 郵税四錢

○コルテス夫人著 家庭教育 定價十錢 郵税二錢

○大博士ドラモンド氏著、根本正君譯 世界の最大物 定價五錢 郵税二錢

○根本正君譯 貧兒出世美談 定價二十五錢 郵税四錢

○根本正君譯 日々の力 定價紙表紙三十五錢 布表紙五十錢（郵税六錢）

○吉成徳五郎君著 酒と子供 定價四錢 郵税二錢

○ハント夫人稿 安藤太郎君譯 幼年生理讀本 定價二十五錢 郵税六錢

○堀網學吉君譯述 家庭清話 定價二十錢 郵税四錢

○庄田彰郎君著 子供のため 定價二十錢 郵税四錢

○碧川企枚君著 野百合 定價二十五錢 郵税四錢

○中野五點吉・田笠兩君著 戰塲の婦人 定價二十錢 郵税四錢

○サアローバート、アンダーロン氏著 ハッチンクン氏譯 福音と役者の職務 定價六十錢 郵税十錢

○シュワルツー氏著 聖書の文學的研究 定價四十錢 郵税六錢

○舶來繪はがき（種々）一枚十錢

内外書肆 東京市銀座四丁目三番地 電話新橋二千五百二十六 **教文館**

夏向は罐詰！

罐詰は日霞印！

一日霞印牛肉罐詰

一日霞印魚介罐詰

一日霞印果實野菜罐詰

一各地特産罐詰各種

一清酒日霞正宗

一純良金鶏印煉乳

一舶來食料品、藥味類

一和洋酒類

一其他貯藏食品一切取揃へ勉強と誠實を以て家庭朝夕の御用達可仕候

逸見山陽堂

東京日本橋區大傳馬町壹

電話浪花二一五番

（市内及全國各地に販賣店有之候）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り

（電話 新橋 八一六番 二八〇八番）

所在地	店名	電話
飯倉四ッ辻	飯倉支店	電話 新橋 一五七四番
赤坂表一丁目	赤坂支店	電話 新橋 二〇六八番
四谷大通り	四谷支店	電話 番町 五一〇番
牛込神樂坂	神樂坂支店	電話 番町 六三〇番
本郷二丁目角	本郷支店	電話 下谷 七二番
神田須田町	須田町支店	電話 本局 二〇七三番
兩國米澤町	米澤町支店	電話 浪花 二五九〇番
淺草吾妻橋通	吾妻橋支店	電話 下谷 七三番
南品川一丁目	品川支店	電話 新橋 一一三九番
横濱吉田町	横濱支店	電話 横濱 一三〇四番
日本橋坂本町	代理店 田中銀行	電話 浪花 二四〇番

外科皮膚病

梅毒 疳瘡 外科的婦人科 尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶ノ水橋畔）

電話本局 八八六番 一三八五番

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷書隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室皆設備成

南湖院

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱（停車場所在）

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷書隨時應需、土曜日午後施診

高田病院施診所

東京麴町區三番町三十番地（市ヶ谷停車場附近）

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及要生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病 靜靖丸 頭痛

腦力を明快にし腦病神經病を全治す

腦病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣鬱ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及び頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に腦を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし腦力を强健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 三日分弱金拾錢　廿二日分（常備用）金壹圓　十日分金五拾錢　六日分金三拾錢　四日分金貳拾錢

本舖 東京市日本橋區藥研堀町　藥劑師　高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

慈善券

ライオン齒磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

北米セントルイス萬國博覽會

名譽銀牌受領

發賣元　東京　小林富次郎

發兌元　大阪　小林支店

粉製　赤鑵入　發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色鑵入にして頗る携帶に便なり
能く香氣の發散を防止し終に至る迄本品獨有の佳香を保つを得べし
遠征の士其他旅行用に適せり

定價一箇拾貳錢